

嬉野っ子ワクワクデザイン令和2年(学校教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)確かな学力の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた「嬉野メソッド」を確立し、授業改善を図る。</li> <li>「確かな学力育成部会」等により、学習状況調査等の各種調査の詳細な分析に基づく課題把握とその対策の充実を図る。</li> <li>「新たな学習内容の推進部会」を中心に学習指導要領の改訂に応じた小・中学校の通知表の様式や評価の在り方についての研究を行う。</li> <li>新聞を取り入れた授業の工夫改善を行う。NIE実践校として、久間小・塩田小・大野原小中学校が研究に取り組む。</li> <li>小学校において「嬉野市子ども学校塾」による学習習慣の定着を、中学校においては、「放課後等補充指導支援事業」により、学習規律や学びの習慣の定着を図り、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観や研究授業等で授業を参観した。「嬉野メソッド」による授業展開は確立できており、新学習指導要領を意識した授業づくりがなされていた。</li> <li>「確かな学力部会」において、2月に県の学習状況調査の結果について成果と課題を共有し、対策を図る。</li> <li>「新たな学習内容の推進部会」において、小学校は通知表の様式を統一して作成することができた。中学校は、来年度から新学習指導要領の全面実施となるため、県の資料をもとに評価の在り方について研修を行った。</li> <li>塩田小学校が研究指定2年目ということで、12月9日(水)に研究発表を実施した。校内研修に位置付けられた発表で、学校全体としての取組の様子がうかがえた。</li> <li>「嬉野市子ども学校塾」は5月25日から11月30日まで週5日間、12月1日から2月12日までは月・水・金の週3日間実施した。週5日間の実施により、臨時休業で乱れた生活習慣を整えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業スタイルは確立できているが、形式だけ取り入れている授業もある。課題の設定や対話活動の充実、教師の発問等に課題がある。</li> <li>コロナによる臨時休業等で4月に実施される予定だった全国調査が従来通りできなかった。そのため、12月の県の学習状況調査の分析を全職員で共通理解し実践することが大切である。</li> <li>中学校の評価の在り方や要録については、学校間の情報共有が必要である。</li> <li>塩田小学校の実践を他の指定校でも参考にしたり、学校間で情報共有しながらすすめていくことが必要である。</li> <li>「嬉野市子ども学校塾」は学校によって利用する児童が多く、使用できる教室に限られており、密になることもあった。子ども学校塾で宿題を終わらせることで、家庭で学習する時間が少なく、保護者が子どもの学習を見る機会も減っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会をとりえて、主体的・対話的で深い学びについての研修を深める。特に授業での対話活動、振り返りに焦点を当てて情報発信する。</li> <li>佐賀県学習状況調査が12月だけの実施になるので、調査結果の活用の充実が望まれる。</li> <li>要録については、記入にかかる前の段階での共通理解を今後もすすめていく。国や県の動向については、教育委員会が中心となって各学校に発信していく。</li> <li>NIE研究指定校間での情報交換や公開授業等で、研究を深めていくことが望まれる。</li> <li>「嬉野市子ども学校塾」については、コロナ禍の中で新しい学校生活に沿った方法で行う必要がある。</li> </ul>
(2)豊かな心の教育推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>嬉野市副読本「生きる力」の教科書の三訂版の導入により、現状に合わせた内容とすることで、生きる力の育成を推進する。併せて、より現状に沿った差し込み資料が必要になれば作成する。</li> <li>コロナ禍における「新しい生活様式」の中で、どの程度「嬉野学」の学習を展開することができるのかを検証し、継続して嬉野市を愛する心を育てる。</li> <li>文化芸術等の巡回公演事業を積極的に誘致して、優れた文化・芸術に直接触れさせることにより、豊かな心の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嬉野市副読本「生きる力」の教科書の三訂版については各学校スムーズに導入できた。差し込み資料については特に要望等がなかったため実施していないが、年度末に行うアンケート結果を見て検討したい。</li> <li>豊かな心の教育推進部会を2度実施した。7月は紙面で、12月は学校代表1名出席して頂き、「新しい生活様式」の中での嬉野学の取組を共有した。各学校がコロナウイルス感染症防止を考慮しながらの活動を実施しており、有益な情報交換の場になった。</li> <li>第3波に伴った緊急事態宣言の発出で、1月の公演をキャンセルした学校もあったが、6校で予定通り実施された。学校としての手ごたえも良かったと聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で指導時数の確保が今までよりも困難であり、時間の確保には課題が残る。</li> <li>来年度も今年度同様のコロナの状況が続くと考えられる。年間計画はコロナの状況を考慮した計画が必要である。</li> <li>豊かな心の教育の推進のために、文化芸術等の巡回公演事業を積極的に誘致することは有効であると捉えている。課題はコロナ禍における感染症防止である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導との連動や総合的な学習の時間での活用など、学校独自の取り組みを共有して、コロナ禍での指導時数の確保の在り方を検討する。</li> <li>今年度実施した豊かな教育推進部会での情報を基に、来年度の計画、活動を実施するときのコロナ対策を作成していく必要がある。</li> </ul>
(3)たくましい心身の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>県教委主催による「スポーツチャレンジ」に積極的に参加し、児童の運動に対する意欲と体力を高める。</li> <li>学校、家庭、地域が連携して、望ましい食習慣を身につけさせるための指導を充実させ、朝食摂取率100%を目指す。</li> <li>SSW、教育相談員、適応指導教室支援員、別室における学校生活支援員等と学校の連携により不登校児童生徒の未然防止や学校復帰に向けた取組を強化する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染予防に係る「学校における新しい生活様式」の提案と感染しない・感染させないための意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校全8校が「スポーツチャレンジ」に参加し体力向上を図った。コロナ禍により例年通りの体育的行事は実施できなかったが、感染対策をしながら「運動会」や「マラソン大会」を実施し、児童の運動に対する意欲と体力を高められた。</li> <li>各学校年間を通して、食育便りの発行、野菜の栽培・調理、栄養教諭による食育指導等の取組を実施した。また栄養教諭から家庭向けに配布される食育便り等を通して、家庭と連携した食育の指導を実施した。</li> <li>SSW、教育相談員、適応指導教室支援員、別室における学校生活支援員の方は学校との連絡も密に取り、不登校や不登校傾向の児童生徒への対応を行った。また不登校者増加傾向にある塩田中に開設された別室では、登校できたけど教室まで行けない生徒の支援を実施できた。</li> <li>すべての学校で「新しい生活様式」を取り入れ確実に実践していた。マスクの着用やソーシャルディスタンスなど、児童生徒に定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナによる実施できなかった体育的行事もあった。来年度はコロナの状況も確認しながら、スポーツチャレンジや体育的行事を実施する必要がある。</li> <li>塩田給食センターの栄養教諭が産休に入るときの代替者が見つからずに苦慮した。</li> <li>今後も不登校者数の増加は続くと思われる。不登校傾向になる前の対応を考えなければいけない、早期発見早期対応をしていくための取組が必要になる。</li> <li>コロナの終息が見えないので、新しい生活様式は引き続き実践していくことが重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の取組を学校だけではなく、家庭と連携して行えるようになれば良いと考える。</li> <li>嬉野、塩田2つの給食センターで連携を取りながら、食育の授業の資料や食育便りなどを共有できるようにすれば、産休代替者もスムーズに食育指導ができると考える。</li> <li>不登校者への支援や不登校の早期発見等を学校間で共有することができればと考える。小中連携の「ろく・さんプラン」の教育相談部会を活用する。</li> <li>県や国からの通知を基にした感染状況に応じた感染対策が重要である。</li> </ul>
(4)特別支援教育の推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインを踏まえた教育環境を作り、インクルーシブ教育を推進する。</li> <li>子育て未来課との連携により早期からの教育相談や就学相談を行うことにより、本人・保護者に十分な情報を提供するとともに、関係機関との連携、幼稚園・保育園と学校との連携を密にし、児童生徒の適切で滑らかな就学や進学を目指す。</li> <li>「特別支援教育部会」等において、特別支援教育に関する研修を行い、コーディネーターの指導力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの学校で教室の前面掲示をなくし、各教室の掲示物を統一するなど視覚情報を抑えすっきりした教室環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>早期支援コーディネーターが、定期的に市内の幼、保、認定こども園を訪問し、幼児の観察、保育者や保護者への支援の助言などを行っている。必要に応じて、関係機関や就学相談や子育て相談へつなぎ、保護者の思いに寄り添いながら、療育や就学をすすめている。</li> <li>就学支援委員会の進め方や資料の様式を見直し改善を図った。</li> <li>「特別支援教育部会」において、西部教育事務所の指導主事を講師に迎え、教育課程や通級指導についての研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒にとってのわかりやすさという点で今後もユニバーサルデザインを踏まえた環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>小学校への滑らかな就学に関しては、早期支援コーディネーターの果たす役割が大変大きい。小学校への引き継ぎが具体的な支援レベルで丁寧になされるような仕組みづくりが必要である。</li> <li>通級による指導を受ける児童生徒だけでなく、通常の学級における配慮の必要な児童・生徒の支援が求められる。職員全体のスキルアップを図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの取組を踏まえ、学校の教育活動の様々な場面でSDGsの視点を持った環境づくりができるよう研修を行う。</li> <li>中学校への引き継ぎが丁寧になされるよう、研修会等で働きかけていく。</li> <li>「特別支援教育部会」において、就学支援委員会における資料作成や通常学級における配慮の必要な児童生徒への支援についての研修を行う。</li> </ul>
(5)校長先生の知恵袋事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上や体験活動の充実に向けた校長のマネジメントを支援し、特色ある学校教育の推進を図る。</li> <li>創意工夫を生かした学習や生徒の興味、関心に基づく学習や体験活動を通して、学力向上や豊かな心の育成を図る。</li> <li>校長先生の学校マネジメント力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画にそった活動が実施され、特色ある学校教育の推進を図ることができ、校長のマネジメント力の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ感染症予防のため、当初計画していた外部の方との交流活動や体験活動ができなくなり、やむをえず計画を変更して実施した学校があった。</li> <li>コロナ禍でもできることを探り、児童生徒の学力向上や豊かな心の育成につながる活動を工夫して行うことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長が替わっても計画倒れにならないように、またコロナ禍でも取り組めるように、計画的に取り組むように校長会等で確認する。</li> <li>校長のマネジメントとして、本事業の目的に沿ったものであり、自校の児童生徒にとって必要なものを見極めて行うように校長会等で確認する。</li> </ul>
(6)ろく・さんプラン推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中の教師による研究授業への相互参加や、中学校教師が小学校に出向いて授業を行うなど、ろく・さんプラン(スリーステップ3年目)を実践し、9年間を見通した指導方法の改善や学力の定着を図る。</li> <li>嬉野中学校区において、佐賀県教育委員会指定の小中連携学力向上事業に取り組み、授業公開などを通して、学力向上に向けた実践や指導方法を共有する。</li> <li>学校生活において、小学校から中学校へ滑らかな接続ができるよう、「小中合同研修会」や「春休みの課題の工夫」など、学びの連続性を確立する。</li> <li>ノーテレビデーの同日実施など、一貫性・統一性を持った指導の在り方を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣・生活習慣・教科指導など、テーマ別で9年間を見通した小中合同の研修会がなされた。今年度は、コロナ感染症予防による3密を避けるために、少人数研修やリモートによる研修が行われた。</li> <li>嬉野中学校区では、各学校の公開授業に小中の教師が参加し、相互に意見交換がなされた。また、12月25日(金)に大妻女子大学准教授榊山敏郎先生による講演会が実施され、主体的対話的で深い学びを実現するための小中連携の在り方について示唆をいただいた。</li> <li>来年度に向けた「春休みの課題」の検討など、確かな学力育成部会によって進められている。</li> <li>小中学校同日での実施によって、ほとんどの学校で実施率が85%以上あり、成果は出ている。家族との会話や手伝い等、時間を有意義に使って過ごすことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区での取組は計画的に実施されており、成果も出ている。今後は、4中学校区での取組の成果と課題を共有し、連携を図っていく必要がある。</li> <li>コロナ感染症予防のため、嬉野中学校区の公開授業に他の小中学校からの参加ができなかった。</li> <li>家庭での取組の差がある。また、「ノーテレビ・ノーゲームデー」ではない日のテレビやゲームの時間が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ろく・さんプラン部会」の全体会で、成果と課題の共有を図る。</li> <li>公開授業への参加の呼びかけや、「ろく・さんプラン部会」で情報共有することで、市内に広めていく。</li> <li>情報教育についての研修会を持つことや、学級懇談会、学校便り等で、親子で家庭での過ごし方について考える機会を設けるように、校長会や「ろく・さんプラン部会」等で伝える。</li> </ul>

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<p>①(1)について、嬉野メソッドによる授業展開が確立され、新学習指導要領に沿って実施されているようだが、指導主事の派遣等を通して、型だけが一人歩きしない創造的な授業を期待します。しかし、この授業展開がコロナ禍でもぶれない学力に繋がっていると思います。新しい学習評価等について、統一した指標の研修を十分に行っていただきたい。「子ども学習塾」「放課後等補充指導支援事業」は、児童生徒の学力の定着に寄与しているが、家庭学習の習慣化に寄与する手法も検討された。</p> <p>②(2)について、コロナ禍での授業内容や授業の進捗について十分に検討する必要があります。「生きる力」の教科書三訂版が導入され、インターネットやSNSについての周知を図り、その功罪を十分に理解させてください。コロナ禍での授業時数確保も難しい中ではあるが、文化芸術講演等の実施方法についても検討し、心の教育の推進に努められた。</p> <p>③(3)について、コロナ禍でいつも以上に心の変調をきたす児童生徒が増加しているようです。難しい状況ではありますが、保護者との連携をなお一層深め共に不登校傾向の児童生徒を減らす方法を検討していただきたい。「新しい生活様式」を踏まえた体育的行事の内容と提供の仕方について検討する必要があります。</p> <p>④(4)について、早期支援コーディネーターの指導力を高め、小学校への接続をスムーズに行えるようにしてください。また、SDGsの理念を職員や児童生徒に理解させ、みんなに優しい物的、心的環境づくりを進めていただきたい。</p> <p>⑤(5)について、コロナ禍で校長先生の知恵袋事業の内容変更を余儀なくされた事と思いますが、事業の趣旨を踏まえ学校・児童生徒にとって真に必要な内容は何かという判断の下実施していただきたい。</p> <p>⑥(6)について、コロナ禍による臨時休業等における家庭での過ごし方(家庭学習、遊び、親子関係など)が多様化したと思われます。リモート、オンライン等による授業や不登校児童生徒のリモート学習や交流等、学校と家庭を結ぶ方法を早急に検討してください。</p>	B

指摘を受けての改善点
<p>①各学校の授業研究会において、児童生徒が意欲的に課題意識を持って学習するような指導の手立て等を指導助言しています。西部教育事務所からも支援をいただいている学校がありますので、次年度も、連携をとりながら指導助言を行っていききたいと思います。また、家庭学習の習慣化については生活習慣や家庭学習の内容についても部会で考えていきたいと思います。</p> <p>②今後もコロナの感染状況は大きく変わらないと考えられるので、授業内容や進捗については、学校に指導助言をしていきます。文化芸術講演については、来年度も9校実施を希望しています。子供たちはコロナ禍により体験活動等が制限されているので、心の教育のための貴重な時間になる文化芸術講演等については、感染防止対策をおこなった上で、実施したいと考えています。</p> <p>③心の変調をきたしている気になる児童生徒については、担任が保護者に連絡をとったり、学校で情報を共有して、必要であればSCIにつないでいきます。不登校児童生徒の学校復帰、教室復帰のために、SSWや教育相談員、適応指導教室や別室の支援員が学校や家庭と連携して対応しています。「新しい生活様式」を踏まえた体育的行事についての内容と提供の仕方については来年度も指導助言していきたいと思っています。</p> <p>④早期支援教育コーディネーターの高い専門性や関係機関との調整力を生かして、幼保小並びに小中への接続を、引き続き行っていききたいと思います。また、SDGsの理念等について知る機会を設けて先生方の意識を高めていきたいと思います。</p> <p>⑤校長先生の理念に基づいた事業計画がなされますが、ご指摘の点については、校長先生方にしっかりと伝えていきたいと思います。</p> <p>⑥来年度中に市内の全児童生徒にタブレットが導入されます。リモートでのオンライン授業については、今後検討したいと考えています。</p>

評価4段階	A 達成(80%以上)
	B ほぼ達成(51~79%)
	C やや不十分(50~21%)
	D 不十分(20%以下)